

江戸時代の道——長崎・日田・薩摩街道



▲内野宿から冷水峠へ向かう長崎街道。まだ石畳が残っています。江戸から長崎・薩摩へと歩いた人々の足跡がうかがえそうです。



◀旧冷水峠に立つ「従是東穂波郡」の郡境石。西が御笠郡になります。

▶部分的に当時の道幅を完全にとどめているところもあります。



現代とちがって、江戸時代の街道は幕府と大名のためのものでした。幕府の役人には、一年交替で勤務する長崎奉行と日田郡代その他があり、大名には薩摩の島津氏を筆頭に、九州すべてで35の大名が一年は在国、一年は江戸と、参勤交代のあわただしい毎年を繰り返しました。そのために整備されたのが街道と宿場です。

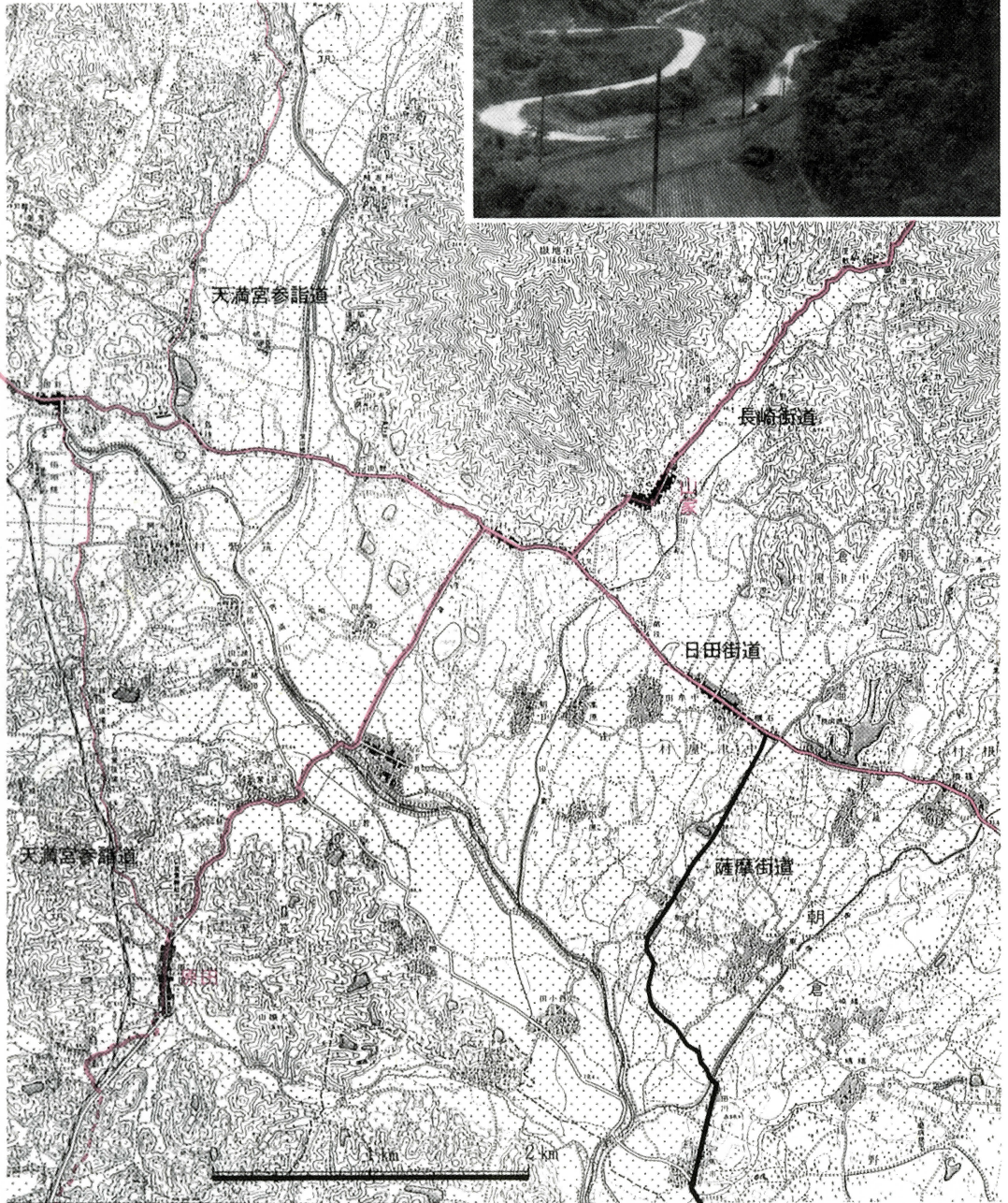
九州の街道のうちで交通量が多かったのは長崎街道・日田街道・薩摩街道ですが、この3道は山家宿で長崎街道一本に集約され、さらに飯塚で篠栗街道が、木屋瀬で唐津街道が合流しましたから、長崎街道が九州最大の幹

道といわれたのです。

長崎街道とは豊前小倉～肥前長崎までの57里1町20間半(約228km)をいい、その間に25の宿場が置かれていました。また、原田～黒崎間(14里16丁＝約58km)は特別に「筑前六宿街道」といわれました。

日田街道とは博多・中津・久留米・熊本・別府から日田に向かう街道の総称で、九州各地の天領を支配する西国郡代が日田に置かれたために整備された街道です。博多～日田の街道は夜須町の石櫃で別れ、薩摩街道となります。その追分には「右肥後薩摩道、左豊後秋月日田甘木道」の道標が立っています。

山家宿から冷水峠へ向かう往年の長崎街道。
オランダ商館長、シーボルト、ケンペルなどもこの
道を通りました。



この地図は、国土地理院発行の2万分1旧版地図（明治33年測量）の「太宰府」,「原田」を使用したものです。

1989. 3. 31発行
1997. 6. 2 第2刷発行
1999.12.7 第3刷発行